

伝えたい

まちの遺産

古代の山林仏教寺院

ーマンダラ寺遺跡ー

越前市と接する矢良集岳(四七二m)の中腹に位置するマンダラ寺遺跡は、地元では「オマンダラ」と呼ばれ、古くから土器などが出土する場所として知られていました。

昭和六十二年、マンダラ寺遺跡における最初の発掘調査が行われました。小規模な調査でしたが、人里離れた山中(標高四〇〇m)から平安時代の土器が出土したことで話題となり、遺跡の将来的な保存が検討されました。その後三回の発掘調査が行われ、平成八年には河野村の指定文化財(現在は南越前町指定文化財)になっています。

発掘では遺跡内の約三分の一を調査し、掘立柱建物とそれに関連する無数の柱穴が確認されました。柱穴の分布状況や密度からみると、一定の意図のもと正方位を意識し数回にわたり建て替えられた



可能性が高く、平坦地の山寄りに建物を配置し前庭部を広くとった寺院の伽藍形態とも考えられます。そのほかには、建物の縁辺で炭化物が堆積した土坑も確認されており、何らかの仏事に使用されたものと思われる。

出土した遺物はほとんどが須恵器で、大半が奈良・平安時代のもので、なかでも、仏教的な性格を窺わせる鉄鉢形土器、浄瓶、円面硯などが出土したことは、マンダラ寺遺跡が山中の仏教寺院であった可能性を強く示すものとなりました。

また、出土した土器のなかに「佐印」と記されたものがあります。同様の墨書が佐味氏の館と推定される越前市村国遺跡からも出土しており、越前の守や介、丹生郡の大領をつとめた佐味氏との関連が想定されます。マンダラ寺遺跡は、越前の国府推定地である越前市街や、国分寺に比定される大虫廃寺からも距離的に近いことから、国府や国分寺と密接な関係があったと推定されます。

以上のことから、マンダラ寺遺跡は奈良時代以降多くみられる山林仏教寺院で、学術の研さんや呪験力を身につけるための修行の場であったと考えられます。



鉄鉢形土器

和の風 町長随想

増澤善和

平成二十年度を迎えて

新年度の町政全般(一部国県事業も)の概要をまとめてみたい。(詳細は本文参照)

①当初予算の概況

一般会計七十八億円・特別会計四十三億円、合計百二十一億円で前年比十八億円の減となった。合併後四年間の当初予算の流れを第一表に示した。また、人口一万から二万人規模の嶺北一市三町の、平成二十年度当初予算(案)を第二表に示した。

②今年度の特徴的事業

・今庄認定こども園(仮称)整備による幼保一元化
・南越前ダイビングパークのプール整備と営業開始

・南条中学校耐震大規模改造の設計

③国道・県道の整備

いづれも道路特定財源が確保された場合の予定である。

・国道三〇五号・ホノケ山トンネル掘削開始(今年度は南条側より)。道路完成は平成二十五年の予定。
・県道武生中小屋線
向新保側よりトンネル掘削開始。下平吹までの完成は平成二十一年の予定。

④役場の新体制

商工観光課をなくし、その業務は新・産業振興課(現在の農林水産課含む)に、管理公社、労働部門は総務課に統合して再編する。

【第一表】南越前町当初予算の年度比較(億円)

	17年度	18年度	19年度	20年度
一般会計	103	99	80	78
特別会計	60	65	59	41
企業会計	-	-	-	2
予算総額	163	164	139	121

【第二表】嶺北一市三町20年度当初予算比較

	人口(人)	当初予算(億円)	一人当額(万円)
南越前町	12,123	121	100
永平寺町	20,660	130	63
越前町	23,735	215	91
勝山市	26,755	190	71